

若狭湾水中散歩

京大水産 実験所 益田 玲爾

1

ハオコゼ

唇も触れんばかりに近づいた二匹の魚。彼らは愛を語り合っているのか、それとも喧嘩しているのか。よくよく観察すると、どうやら二匹は争っているらしいことがわかる。写真で左の魚の口の周りがすりむけ、そして右の魚は胸びれがちぎれている。

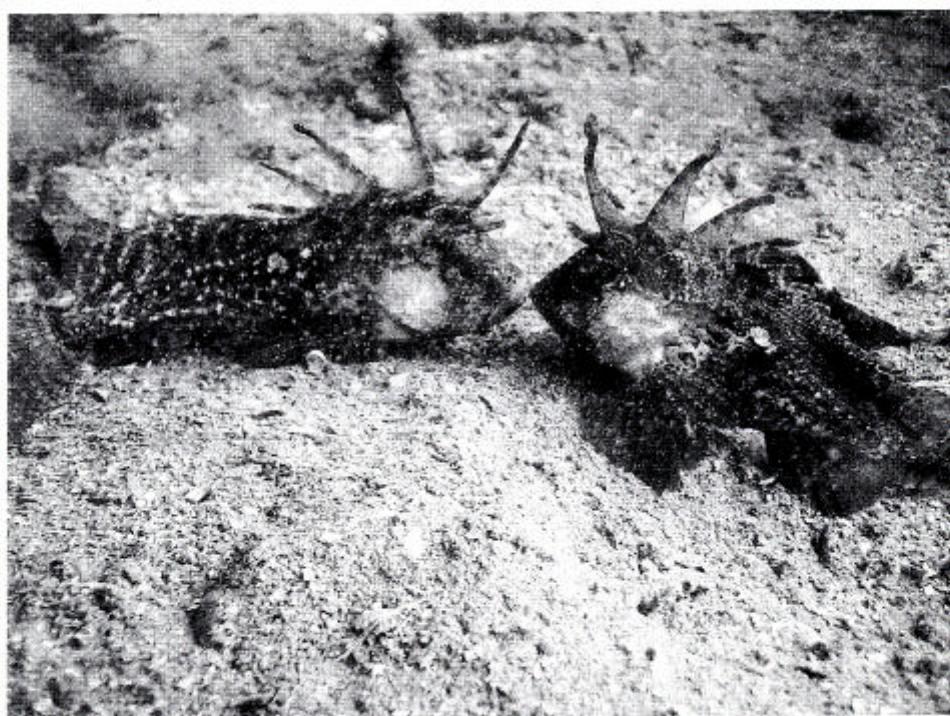
ハオコゼの背びれには猛毒があって、誤つてつかむと大けがをする。私の同級生は大学の臨海実習中に釣りをしていて、この魚に刺された。最初は大きくなかった

が、「魚の毒はタンパク質だから、熱で分解されるはず。だから傷口に熱湯をかける」との私をかけて、長浜のハオコゼの指示を忠実に守ったせいか、それとも喧嘩しているのか。よくよく観察すると、どうやら二匹は争っているらしいことがわかる。写真で左の魚の口の周りがすりむけ、そして右の魚は胸びれがちぎれている。

いか、手はグローブのようになります。致命傷にいたるであろう腫れ上がり、夜にろう猛毒の行使は決してならない。背びれのとげは、ハオコゼを見ていると今いふに腫れ上がり、夜にろう猛毒の行使は決してならない。背びれのとげは、ハオコゼを見ていると今は右の魚が退散していく。ついで激しく争い、最後にらみ合った後、お互いの胸びれや尻びれにかみついて激しく争い、最後は右の魚が退散していく。た。どのかな春の海で見かけた珍事であった。

春の海でにらめっこ

益田さんプロフィール
京都大学大学院付属水産実験所助手の益田玲爾さんは、東京大学海洋研究所卒業。専攻は魚類心理学。若狭湾の磯や砂浜など沿岸部を潜り、魚類の季節変化の基礎データを集めている。趣味もダイビング。益田さんが水中で撮影した魚たちや海の様子を紹介します。



体長7寸のハオコゼ=撮影地は長浜、水深6m